

2022年12月期 第2四半期決算

---



補足説明資料

---

株式会社テクノフレックス  
証券コード:3449

- ✓ 本資料に記載された将来の見通しは、現時点で入手可能な情報に基づき作成されたものであり、将来発生する様々な要因により、異なる結果となる可能性を含みます。
- ✓ 2018年12月期は、決算短信、有価証券報告書、四半期報告書及び連結計算書類を作成していないため、「連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」(昭和51年大蔵省令第28号)に基づき作成した連結財務諸表の数値を、参考情報として記載しております。
- ✓ 2022年12月期の期首より「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号)を適用しており、2022年12月期の業績予想(計画)も、当該会計基準を適用した後の数値を記載しております。
- ✓ 2021年12月期の実績は「収益認識に関する会計基準」を適用する前の数値を記載しております。
- ✓ 2022年12月期と2021年12月期以前とを比較した記載は、会計基準が異なることから、参考情報として記載しております。
- ✓ 2022年4月1日付で、連結対象の完全子会社「株式会社アクアリザーブ」と合併いたしました。これに伴い、当期第1四半期までは「防災・工事事業」としておりました「防災用貯水タンク」の業績を、当期第2四半期から「継手事業」にセグメント変更いたしました。そのため本資料では、セグメント変更後の数値を、参考情報として記載しております。

1. 2022年12月期 第2四半期決算概要
2. 2022年12月期 業績予想
3. 千葉工場の拡張工事について(続報)
4. 配当金について

(補足資料)  
テクノフレックスの概要



---

# 1. 2022年12月期第2四半期決算概要

---

# 2022年12月期 第2四半期 連結業績 1 前年同期比・計画比(1)



## ◆ 連結業績(前年同期比・計画比)

単位:百万円

|                         | 連結業績    |         | 前年同期比<br>(伸長率) |         | 計画比(進捗率)   |        |        |        |       |
|-------------------------|---------|---------|----------------|---------|------------|--------|--------|--------|-------|
|                         | 2021_2Q | 2022_2Q |                |         | 期初・<br>修正後 | 2Q累計   |        | 通期     |       |
|                         |         |         |                |         |            | 計画値    | 達成率    | 計画値    | 進捗率   |
| 連結売上高                   | 8,857   | 10,972  | +2,115         | +23.9%  | 期初計画       | 10,550 | 104.0% | 20,650 | 53.1% |
|                         |         |         |                |         | 修正後計画      | 10,995 | 99.8%  |        |       |
| 連結営業利益                  | 1,169   | 1,510   | +340           | +29.1%  | 期初計画       | 1,350  | 111.9% | 2,500  | 60.4% |
|                         |         |         |                |         | 修正後計画      | 1,523  | 99.2%  |        |       |
| 親会社株主に帰属する<br>当期/四半期純利益 | 734     | 1,598   | +864           | +117.7% | 期初計画       | 950    | 168.3% | 1,850  | 86.4% |
|                         |         |         |                |         | 修正後計画      | 1,576  | 101.4% |        |       |

- ✓ 当期は、2Q累計の親会社株主に帰属する四半期純利益が、計画比で大きく上振れる見込みとなり、2022年7月14日付で2Q連結累計計画を上方修正いたしました。
- ✓ 2Qまでの進捗が良好ではありますが、原材料価格や為替の変動が大きく、先行き不透明なことから、通期計画につきましては、期初に公表いたしました計画を据え置いております。
- ✓ 当期の計画には、千葉工場の拡張工事に伴う費用発生等を見込んでおりますが、当期2Qは工事着工前のため、業績への影響は軽微でした。

### ● 連結売上高

- ✓ 主力の継手事業では、中国上海市のロックダウンにより上海工場の出荷が制限され、厳しい事業環境でしたが、継手事業の他の部門が大きく売上を伸ばし、連結売上高の増加に貢献しました。
- ✓ その結果、連結売上高は、前年同期比+2,115百万円(伸長率+23.9%)となりました。

### ● 連結営業利益

- ✓ 連結売上高の増加により、連結営業利益が増加しました。
- ✓ その結果、連結営業利益は、前年同期比+340百万円(+29.1%)となりました。

### ● 親会社株主に帰属する四半期純利益

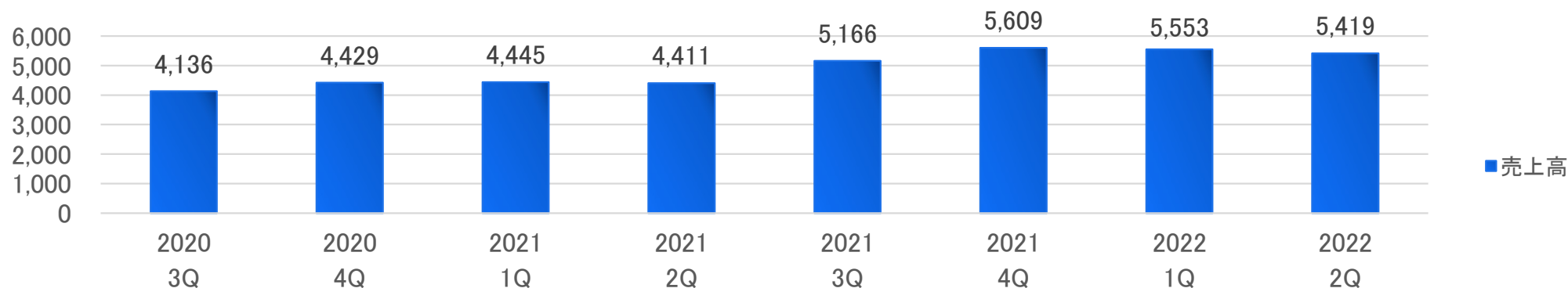
- ✓ 連結営業利益の増加と、当期4月1日付で連結子会社であった(株)アクアリザーブを吸収合併したことによる税効果の影響から、大幅な増益となりました。
- ✓ その結果、親会社株主に帰属する四半期純利益は、前年同期比+864百万円(+117.7%)となりました。

## 2022年12月期 第2四半期 連結業績 2 四半期業績の推移



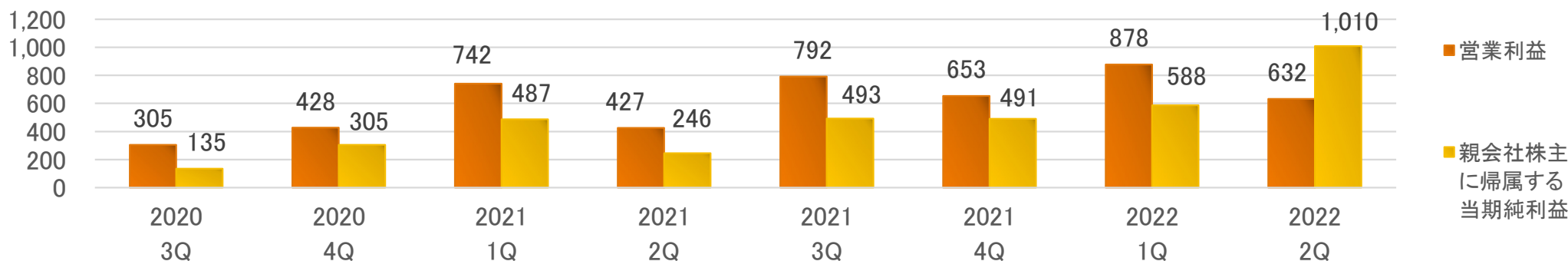
単位:百万円

### 四半期 連結売上高の推移



単位:百万円

### 四半期 連結利益の推移

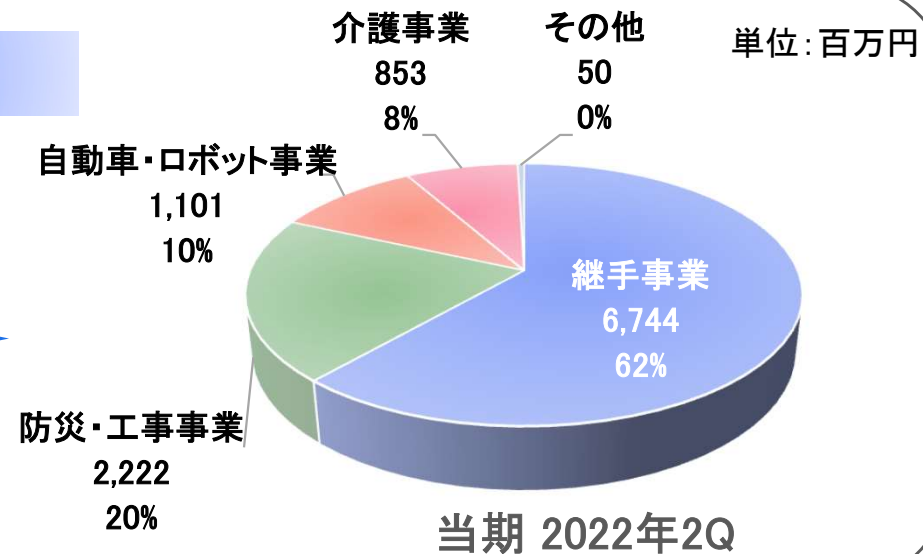
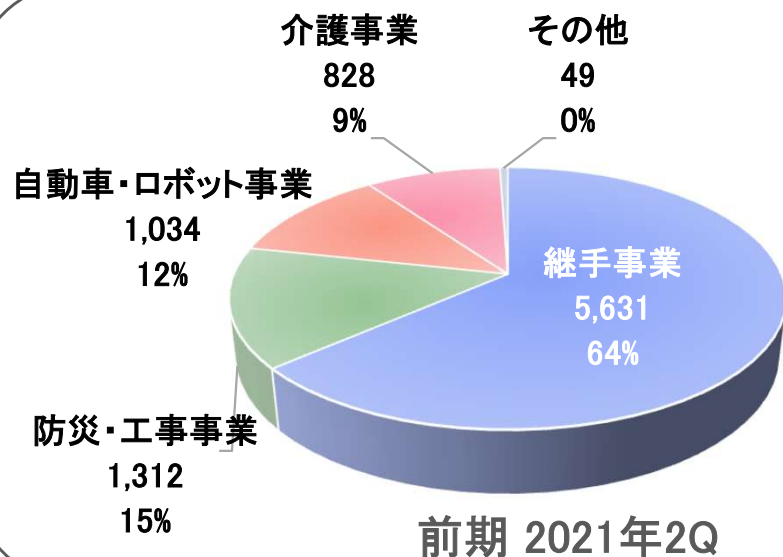


- 半導体分野(継手事業)と消防設備工事(防災・工事事業)で大型工事が売上計上されると、四半期の収益が大きく増加します。
- 2020年下期の業績落ち込み以降は回復に向かい、現在は高い水準で推移しております。
- 連結子会社であった(株)アクアリザーブの吸収合併に伴う税効果は、当期2Qの親会社株主に帰属する四半期純利益に影響しています。

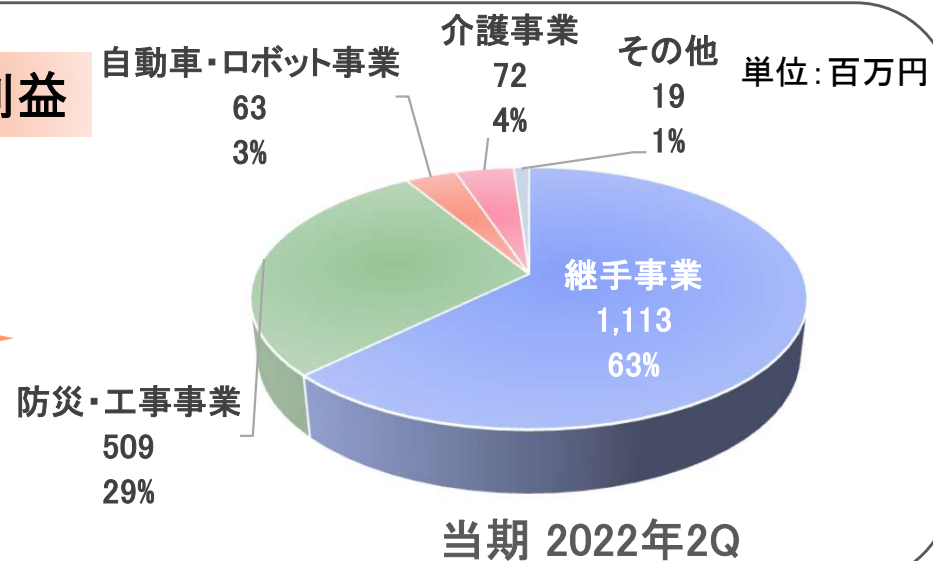
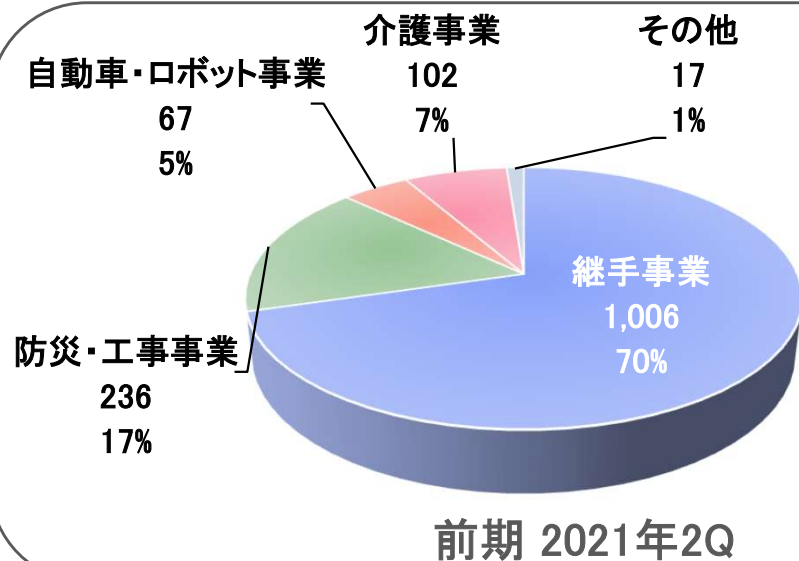
# 2022年12月期 第2四半期 セグメント構成比



## 売上高



## セグメント利益

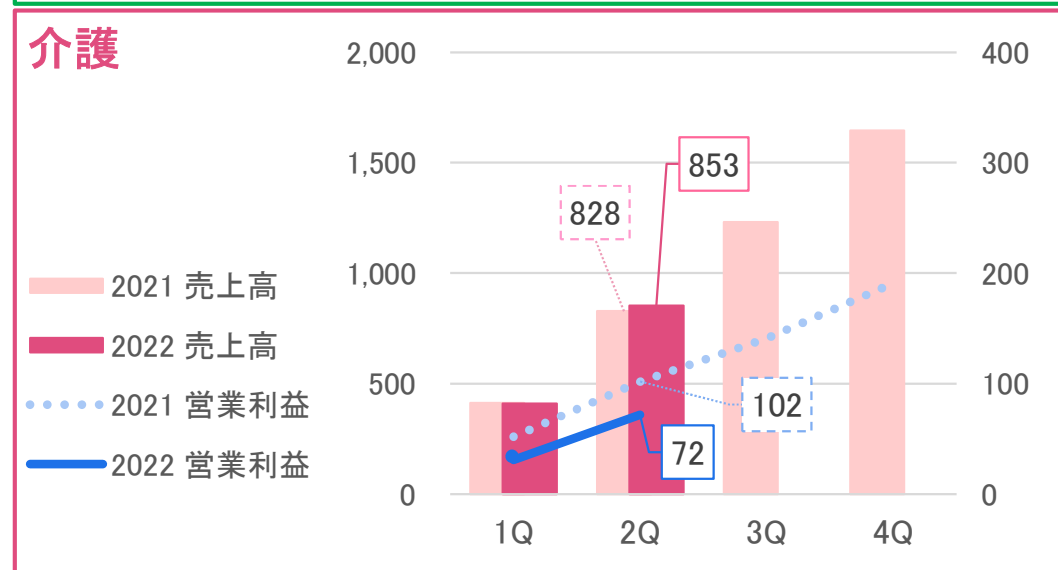
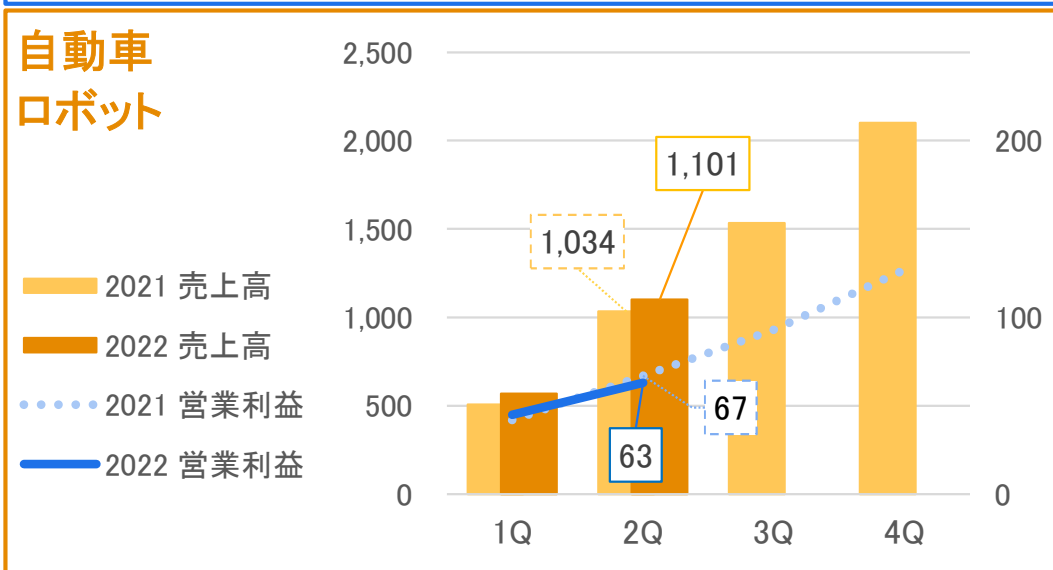
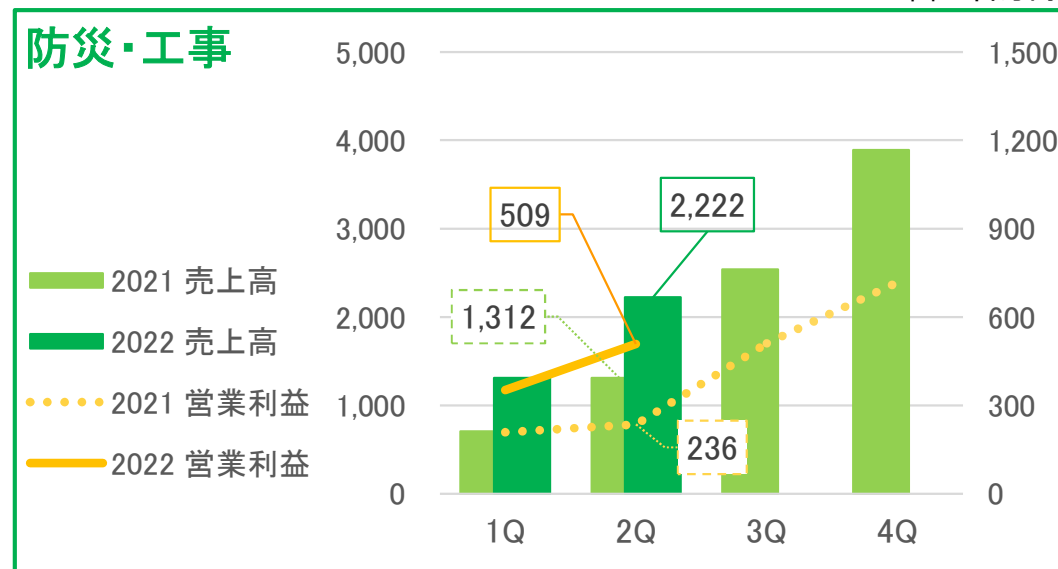
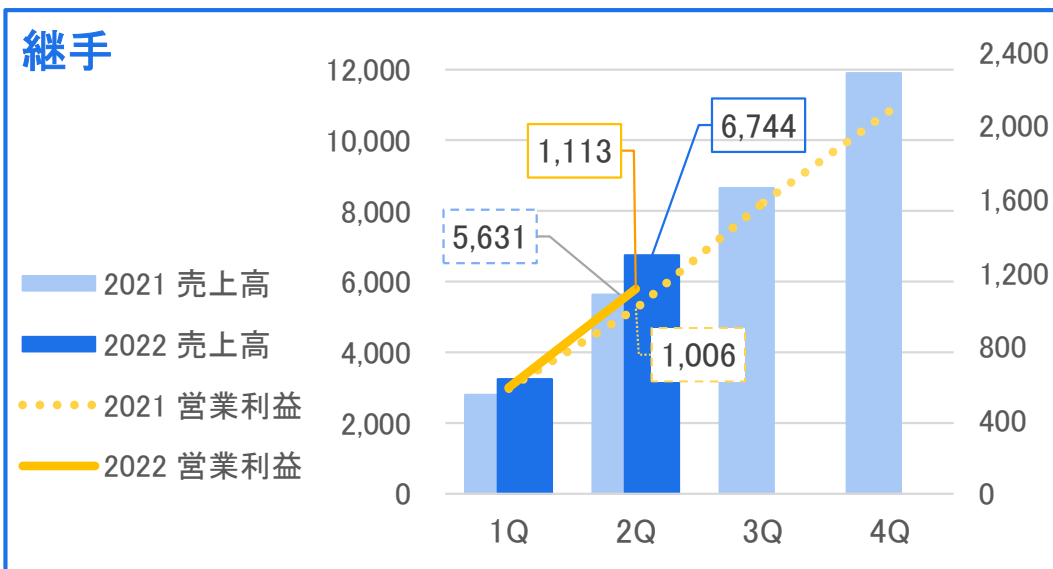




# 2022年12月期 第2四半期 セグメント業績 前年同期比(累計)



単位: 百万円



- 売上高は、4つの事業セグメント全てが、前年同期比プラスとなりました。
- 営業利益は、継手事業と防災・工事事業が、前年同期比プラスとなりました。

## ◆ 継手事業(1)

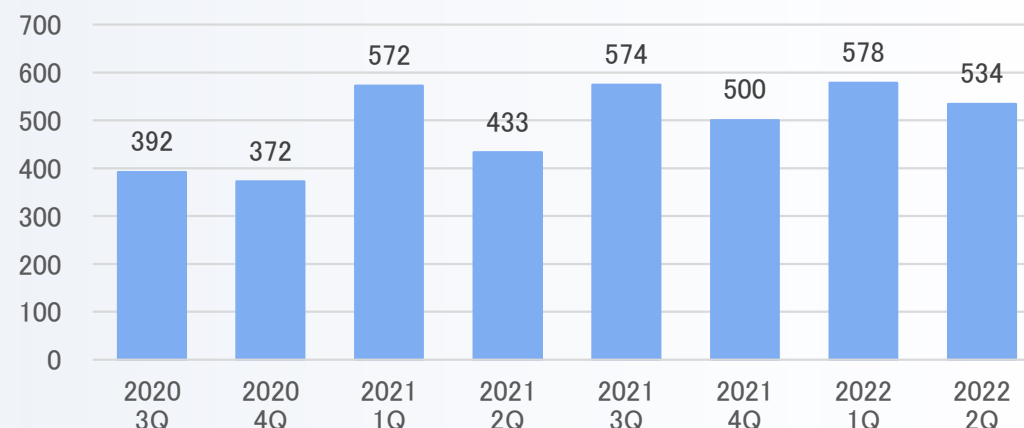
### 売上高の推移

単位:百万円



### 営業利益の推移

単位:百万円



- 継手事業は、4事業\*の全ての売上が、前年同期比プラスとなりました。
- 営業利益額は前年同期比プラスとなりましたが、原材料費の高騰と円安の影響から、営業利益率は低下いたしました。

※ 従来からのフレキシブル継手、伸縮管継手、真空機器の3つの事業に、当2Qから事業セグメントを変更した防災用貯給水タンクの事業が加わり、継手事業は、4事業の構成となりました。

### ➤ フレキシブル継手

- ✓ スプリンクラー用が上期を通じて順調に売上を伸ばしています。
- ✓ 一般産業分野も、半導体メーカーの設備投資等から、順調に売上を伸ばしています。
- ✓ 水道分野では、SDF工法用(老朽化した水道本管の交換用)が、コロナ影響による低迷から回復し、売上を伸ばしています。

### ◆ 継手事業(2)

#### ➤ 伸縮管継手

- ✓ 電力分野の売上が、引き続き好調です。
- ✓ 1Qに延期となった大型案件は、当2Qに売上計上しました。

#### ➤ 真空機器

##### ✓ 半導体分野

NAND型メモリーメーカーの大型設備工事が、当2Qから開始となり、半導体分野の売上に貢献しています。

##### ✓ 長尺ホース(チラーホース、クライオホース)

1Qから好調なクライオホース(極低温用)が、当2Qも売上を伸ばしています。

##### ✓ 海外向け出荷(上海工場)

中国上海市で新型コロナウイルスの感染拡大によるロックダウン(都市封鎖)が実施されたため、上海工場からの出荷が制限され、特に中国での売上に影響が出ましたが、現在は、回復に向かっています。

#### ➤ 防災用貯給水タンク

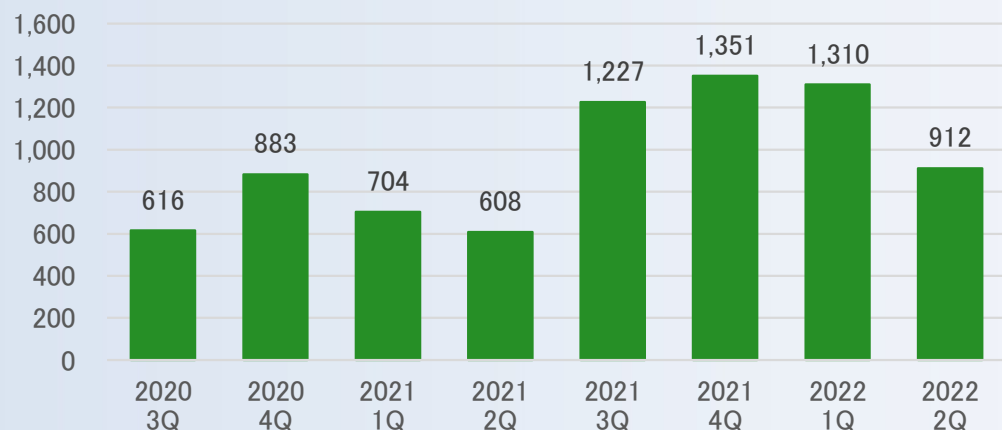
- ✓ 防災用貯給水タンク事業を営んでいた連結子会社(株)アクアリザーブを当期4月1日付で吸収合併しました。

- ✓ 合併に伴い、防災用貯給水事業は、当2Qから、防災・工事事業から継手事業にセグメント変更しています。

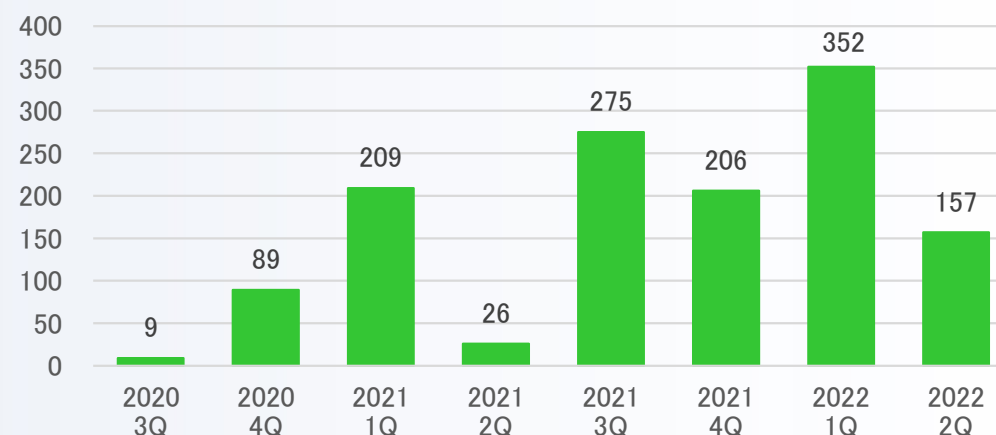
- 以上のことから、継手事業の前年同期比は、売上高+1,113百万円(+19.8%)、営業利益+106百万円(+10.6%)となりました。

## ◆ 防災・工事事業

売上高の推移 単位:百万円



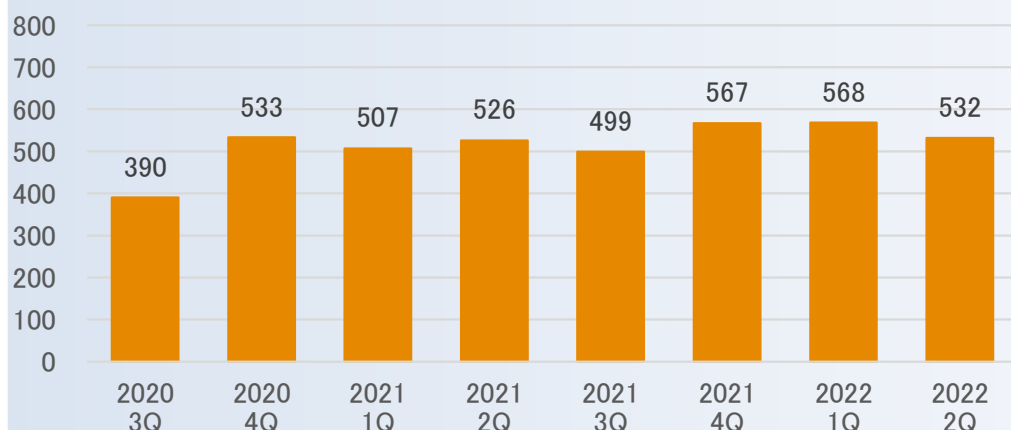
営業利益の推移 単位:百万円



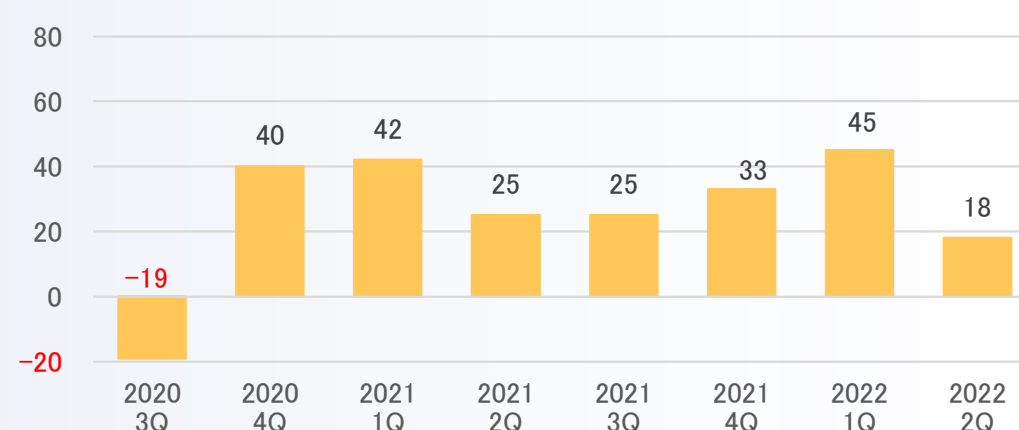
- 防災・工事事業の収益は、前年同期比で大きく増加しました。
- 消防設備工事は、首都圏再開発の大型工事が多い状況が続いており、受注高は堅調です。
- 案件ごとの進捗、利益率により、四半期の収益に変動が生じています。
- 当期1Qは、高利益率の案件を複数売上計上したため、営業利益が大きく増加しています。
- 以上のことから、防災・工事事業の前年同期比は、売上高+909百万円(+69.3%)、営業利益+273百万円(+115.9%)となりました。

## ◆ 自動車・ロボット事業

売上高の推移 単位:百万円



営業利益の推移 単位:百万円

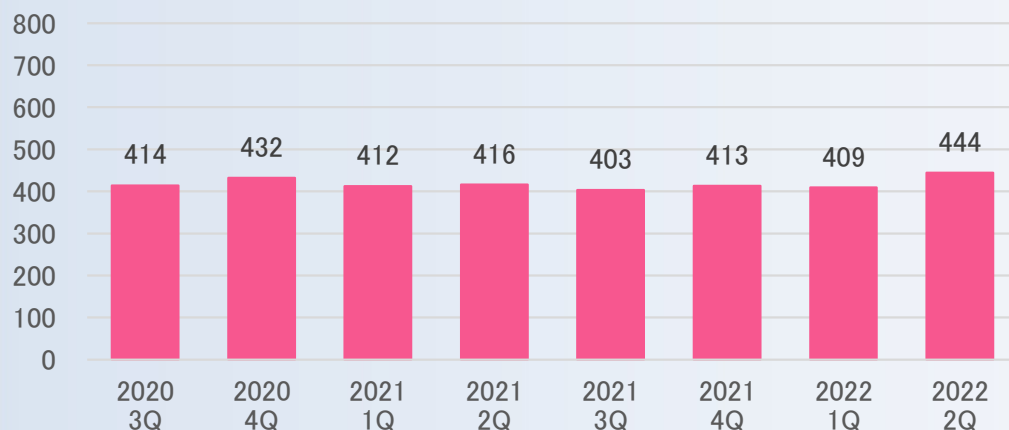


- 半導体不足等による影響はありましたが、上期全体の売上は、前期からの好調が継続しています。
- 営業利益は、金属価格の高騰から原材料費が増加したため、減少しました。
- 自動車分野
  - ✓ トラック向けの金属部品が、当2Qも順調に伸びていますが、半導体不足等による自動車メーカーの減産影響があり、自動車分野全体の売上は、前年同期比マイナスでした。
- ロボット分野
  - ✓ ロボット分野は、半導体不足等による影響が発生しておりますが、需要拡大の勢いが勝り、右肩上がりの成長を継続しています。
- 以上のことから、自動車・ロボット事業の前年同期比は、売上高+66百万円(+6.4%)、営業利益▲3百万円(▲5.6%)となりました。

## ◆ 介護事業

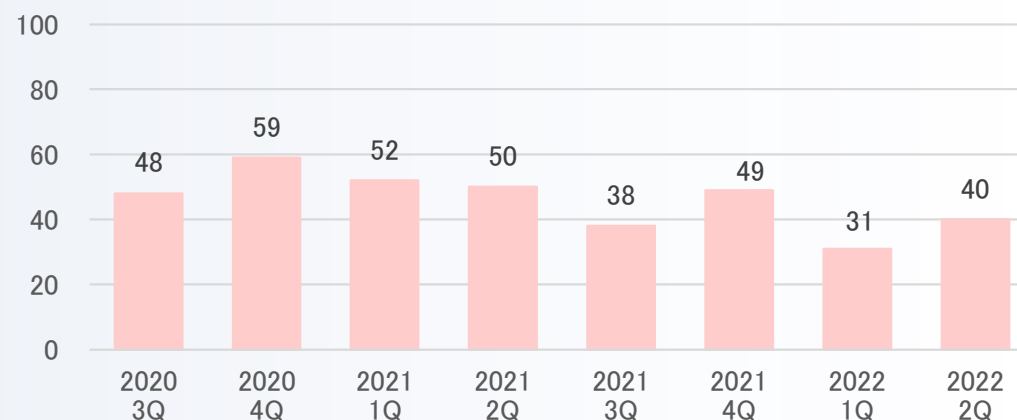
### 売上高の推移

単位:百万円



### 営業利益の推移

単位:百万円



- 介護用品のレンタルを主軸としているため、コロナ禍でも継続契約に支えられて、底堅く推移しています。
- 当期に営業利益が減少しているのは、主にレンタル原価の上昇によるものです。
- 以上のことから、介護事業の前年同期比は、売上高+25百万円(+3.1%)、営業利益▲30百万円(▲29.9%)となりました。

---

## 2. 2022年12月期 業績予想

---

# 2022年12月期連結業績予想 SUMMARY



## ◆ 連結業績予想

単位：百万円

|                         | 前期2021年<br>通期業績 | 当期2022年<br>通期業績予想<br>(前年同期比) | 当期2022年<br>2Q累計業績<br>(進捗率) |
|-------------------------|-----------------|------------------------------|----------------------------|
| 連結売上高                   | 19,633          | 20,650 (+5.2%)               | 10,972 (53.1%)             |
| 連結営業利益                  | 2,615           | 2,500 (▲4.4%)                | 1,510 (60.4%)              |
| 親会社株主に帰属する<br>当期/四半期純利益 | 1,718           | 1,850 (+7.6%)                | 1,598 (86.4%)              |

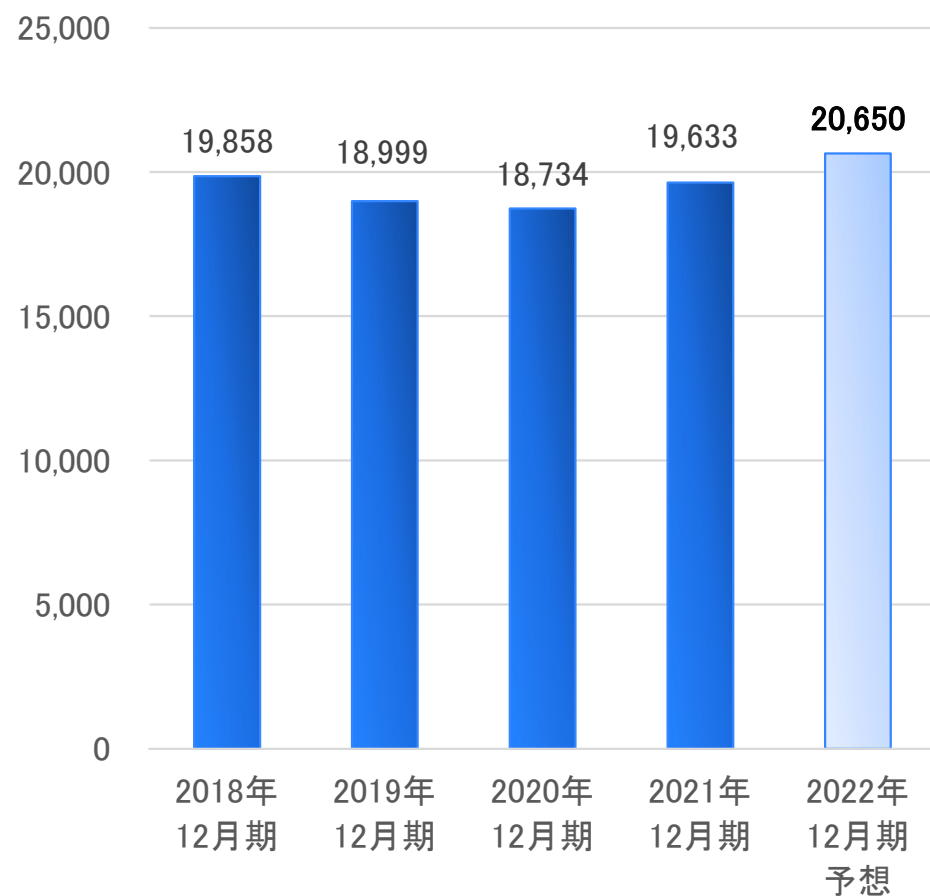
- 2Qまでの進捗率が高いものの、原材料価格や為替の変動が大きく先行き不透明な為、予想値の算定が困難なことから、通期業績予想につきましては、期初に公表いたしました業績予想を据え置いております。
- 期初に公表いたしました業績予想で、連結営業利益が前年同期比マイナスの予想としておりますのは、前年同期に消防設備工事で高利益案件による利益の上振れがあったことと、当期に千葉工場の拡張工事が開始されることを勘案したためです。
- 親会社株主に帰属する当期純利益の進捗率が高いのは、株式会社アクアリザーブとの合併で生じた税効果によるものです。
- 下期も市場環境は、概ね良好な状態を予想しています。



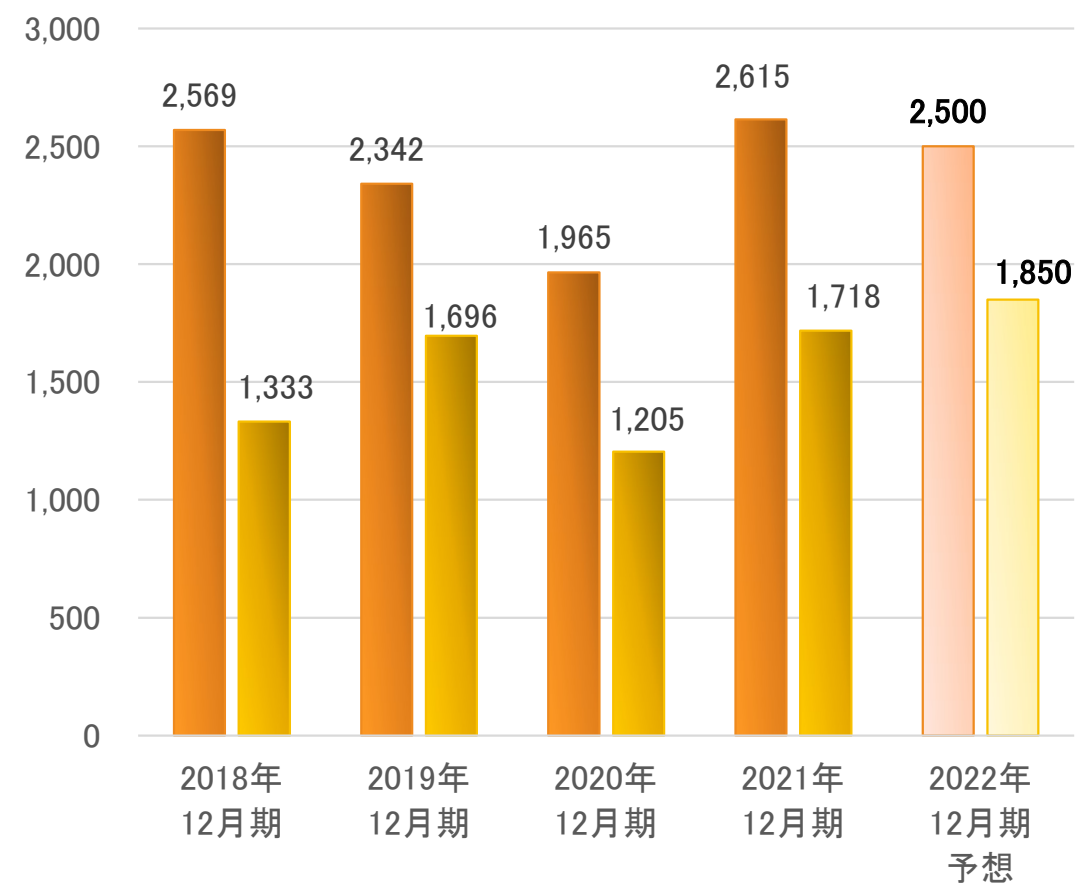
# 2022年12月期連結業績予想(直近4年間の実績と比較)



単位:百万円



単位:百万円



### ◆ 継手事業

- 全体的に良好な推移となり、引き続き売上が増加する見込みです。
- 原材料費高騰の影響は避けられないものの、コスト削減と、一部製品では販売価格の変更にて、影響を抑えて参ります。
  - フレキシブル継手
    - ✓ スプリンクラー用、一般産業用が良好に推移し、全体的に好調を維持する見込みです。
  - 伸縮管継手
    - ✓ 電力関係の受注が、継続的に見込まれます。
  - 真空機器
    - ✓ 半導体分野は、当期2Qに開始されたNAND型メモリーメーカーの大規模な設備工事が、下期売上にも寄与する見込みです。
    - ✓ クライオホースは、下期も順調に売上を伸ばす見込みです。
    - ✓ 中国の上海工場は、上海市のロックダウンによる遅れを挽回して参ります。
  - 防災用貯給水タンク
    - ✓ 戸建住宅用の「マルチアクアS」に加え、BCP用の新製品「マルチアクアC」の拡販に努めてまいります。

### ◆ 防災・工事事業

#### ➤ 消防設備工事

- ✓ 首都圏再開発の大型工事が多い状況が、今後も続く見込みであり、受注高は堅調です。
- ✓ 案件ごとの進捗、利益率により、四半期ごとの収益には、今後も増減が生じるものと思われます。

### ◆ 自動車・ロボット事業

#### ➤ 自動車分野

- ✓ 自動車メーカーでは、部材等の供給遅延による減産が、今後も発生するものと思われませんが、引き続き堅調に推移する見込みです。

#### ➤ ロボット分野

- ✓ 半導体不足の影響はありますが、需要が旺盛であり、下期も売上が増加する見込みです。

### ◆ 介護事業

#### ➤ 介護用品のレンタルを軸に、商品販売にも注力し、底堅い推移となる見込みです。

- 2022年7月1日付の吸収分割により、株式会社ユーユーワールド(栃木県宇都宮市)から福祉用具貸与事業を承継し、栃木県2つ目の営業所となる宇都宮南営業所を開所しました。栃木県における介護サービスの充実に努めて参ります。

---

### 3. 千葉工場の拡張工事について(続報)

---

# 千葉工場拡張工事の計画決定



- ◆ 予てよりお知らせして参りました千葉工場拡張工事の計画が、下記の通り決定いたしましたので、お知らせいたします。

- 計画の概要

当社の主要なマーケットである都心部に近く、また、流通面で利便性の高い港にも近いという、千葉工場の優れた立地を有効活用するため、老朽化の進む一部の平屋建ての工場棟および隣接する建物約6,000㎡(約1,800坪)を解体した敷地に、地上6階建て延床面積約17,000㎡(約5,000坪)の新工場棟を建設し、敷地を立体的に有効活用することで工場を拡張する計画です。

- 建設工事の内容

|       |   |
|-------|---|
| 所在地   | 千葉県船橋市潮見町34-3、他   |
| 総敷地面積 | 約13,000㎡(約4,000坪) ※敷地内の一部の建物を建替える計画   |
| 建物計画  | 鉄骨造、地上6階建て、延床面積約17,000㎡(約5,000坪)の新工場を建設<br>※既存建物を含めると総延床面積は約27,000㎡(約8,000坪)となる計画 |
| 工事費用  | 約45億円(税抜) ※設計、解体費用を含む   |
| 資金計画  | 金融機関からの借入金等   |
| 工期    | 2022年9月着工～2024年4月竣工   |
| 設計    | 株式会社JFE設計   |
| 施工    | 大成建設株式会社  |



▲ 新工場のイメージ



▲ 敷地のほぼ中央に新工場を建設します。千葉工場の総延床面積を、約15,000㎡から27,000㎡に拡張する予定です。

## 本件に係わる直近の適時開示情報

2022年7月14日付「千葉工場拡張工事の計画決定に関するお知らせ」<https://ssl4.eir-parts.net/doc/3449/tdnet/2157037/00.pdf>

## ● 国内回帰による効果

- 海外グループ会社の日本国内向け製品の製造について、千葉工場へのシフトを進め、海外からの輸送コスト削減、在庫期間の短縮（国内在庫回転率の向上）を図ります。
- これによる航空輸送・海上輸送の減少は、二酸化炭素排出量の削減につながります。
- また、海外情勢によるリスクの低減にもつながります。
- なお、海外グループ会社は、海外向け製品の製造・販売を強化します。

## ● 地産地消による効果

- 国内の各工場から、当社最大のマーケットである首都圏に近い千葉工場に、首都圏向け製品の製造を集約します。首都圏への配送距離と時間の短縮により、輸送コスト削減と顧客満足度向上の両立を図ります。
- また、輸送距離の短縮は、二酸化炭素排出量の削減にもつながります。
- 更に、自社配送化を進め、簡易包装での出荷による省資源化を進めます。

## ● 製造効率の向上による効果

- 製造ロボットの導入等、設備の自動化による効率化を進め、収益性を向上します。
- 効率化による二酸化炭素排出量の削減を図ります。

## ● 製品開発・製品試験の効果

- 非溶接構造の金属製品開発を進め、二酸化炭素排出量の削減を目指します。
- 試験センターを設置し、耐火試験、データ収集、他社との共同研究開発等に活用します。

## ● 建物の省エネルギー効果

- 新工場の屋上は、将来の太陽光発電パネルの設置に備えた設計となっています。
- 空調効率を高めるため、外気の影響が少ない設計としています。

## ● グループシナジー

- 現在、千葉工場では、当社の継手製品の製造とグループ会社(株)TFエンジニアリングの配管プレハブ加工が、操業しています。新工場では、当社の防災用貯水タンク「マルチアクア」の製造と、グループ会社(株)スペースケアの介護用マットレスの洗浄事業も加わり、人材と技術の交流が更に活性化する見込みです。



---

## 4. 配当金について

---



## 中間配当の増配と期末配当予想の修正について



| (基準日)   | 1株あたり配当金(円)           |                          |            |
|---------|-----------------------|--------------------------|------------|
|         | 中間配当金<br>(2022年6月30日) | 期末配当金予想<br>(2022年12月31日) | 合計(年間配当予想) |
| 期初の予想   | 20円00銭                | 21円00銭                   | 41円00銭     |
| 修正後の予想  | -                     | 23円00銭                   | 44円00銭     |
| 当期の決定金額 | 21円00銭                | -                        | -          |
| 前期実績    | 20円00銭                | 21円00銭                   | 41円00銭     |

### ◆ 中間配当の増配

当期の中間配当につきましては、当第2四半期連結累計期間の業績および市場環境等を総合的に検討した結果、期初の配当予想の1株当たり20円から1円増配して21円をお支払いすることといたしました。  
お支払い開始日は、2022年8月16日を予定しています。

### ◆ 期末配当予想の修正

原材料価格や為替の変動が大きく先行き不透明な為、予想値の算定が困難なことから、通期業績予想につきましては、期初に公表いたしました業績予想を据え置いておりますが、中間配当と同様に、当第2四半期連結累計期間の業績および市場環境等を総合的に検討し、期末配当予想につきましては、1株あたり21円の予想から2円増配の予想とし、23円といたしました。

### ◆ 年間配当予想

上記により、当期の年間配当予想は44円となり、期初の年間配当予想41円から3円の増配予想となりました。



---

## (補足資料) テクノフレックスの概要

---

|       |  |
|-------|--|
| 会社名   | 株式会社テクノフレックス                               |
| 代表者名  | 代表取締役社長 前島 岳                               |
| 本社所在地 | 東京都台東区蔵前一丁目5番1号                            |
| 資本金   | 10億円(2022年6月30日現在)                         |
| 設立日   | 1977年8月                                    |
| 決算期   | 12月決算                                      |
| 事業内容  | 継手事業 / 防災・工事事業 / 自動車・ロボット事業 / 介護事業         |
| 従業員数  | 単体:374名(2021年12月31日現在) 連結:1,006名 ※臨時雇用者を含む |



- ◆ (継手事業) : (株)東京螺旋管製作所と東洋螺旋管工業(株)は、当社と合併し、現在は(株)テクノフレックスとなっています。
- ◆ (防災・工事事業) : (株)防災企画は、(株)TFエンジニアリングと合併し、現在は(株)TFエンジニアリングとなっています。  
(株)アクアリザーブは、当社と合併し、当期第2四半期から(株)テクノフレックスの事業となり、継手事業にセグメント変更しております。

# 皆様の生活とのかかわり



◆ テクノフレックスグループは、「生活インフラ」「産業・先端技術」「防災」「介護」の4つの分野で、皆様の暮らす社会を支える事業を展開しています。



※ 上記の分野は、当社グループの事業を、皆様の生活に係る4つの分野に整理したものであり、当社の会計上の事業セグメントとは異なります。



# 当社グループの4つの事業セグメント



## ① 継手事業



## ③ 自動車・ロボット事業



## ② 防災・工事事業



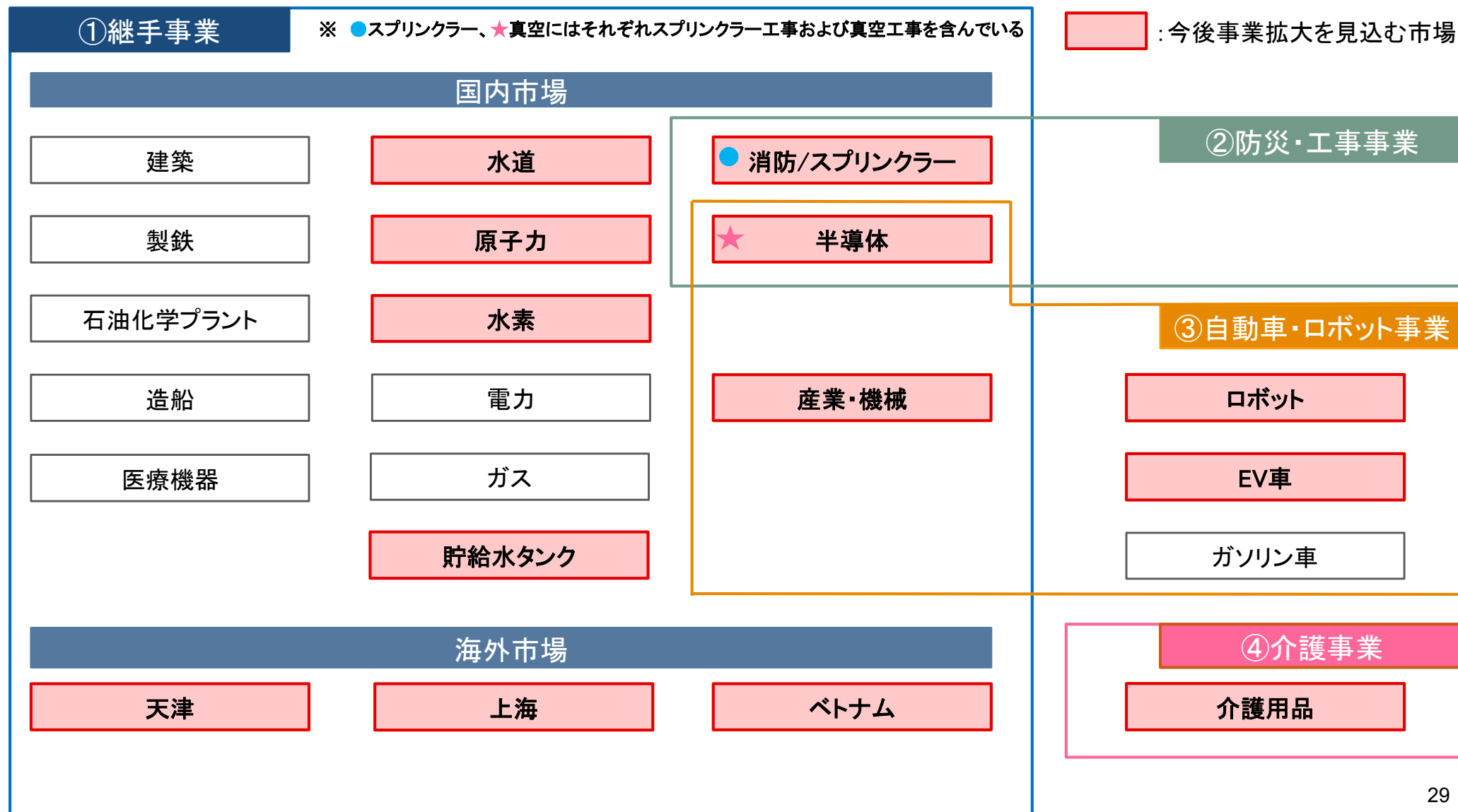
## ④ 介護事業



# マーケットと 4つの事業セグメント



- 当社グループがターゲットとするマーケットは多岐にわたりますが、特に事業拡大を見込む市場としては水道、原子力、水素、消防/スプリンクラー、半導体、産業・機械、貯水タンク、ロボット、EV車、介護用品、海外市場が挙げられます。



- ◆ 管継手 : 管と管のつなぎ目
  - 固定式 : T字型・L字型など固定形状の継手
  - 可撓式 : 継手自体が曲がったり伸び縮みしたりできる継手

テクノフレックス

◆ テクノフレックスの管継手は大きく3種類

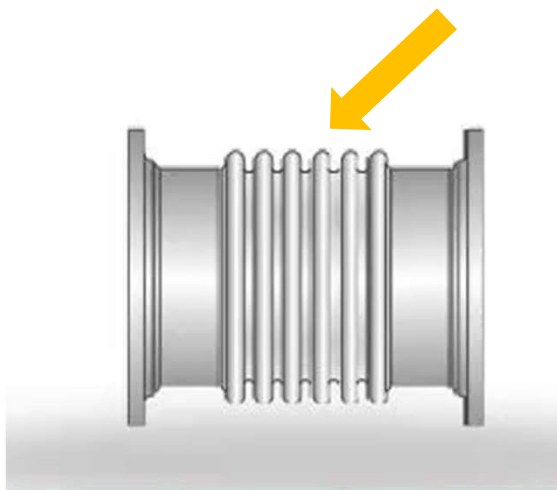
【フレキシブル継手】

全体が曲がる継手



【伸縮管継手】

波状の部分で伸縮が可能



【真空機器】

真空配管用の継手・金属部品





# 事業セグメント 1 継手事業 ①フレキシブル継手

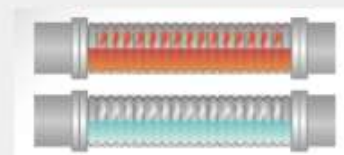
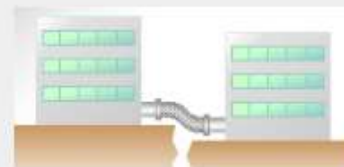


- ◆配管作業を容易に ▶ 作業効率向上。経験の浅い作業員でも設置でき、人手不足の解消にも貢献。
- ◆耐震性 ▶ 地震への対策から、耐震性の需要が高まる。

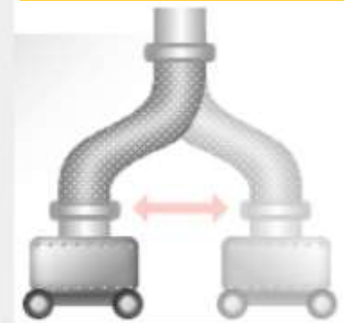
町のあちこちに  
テクノフレックス



変位吸収



機械的な動作に  
対応



振動吸収



作業効率

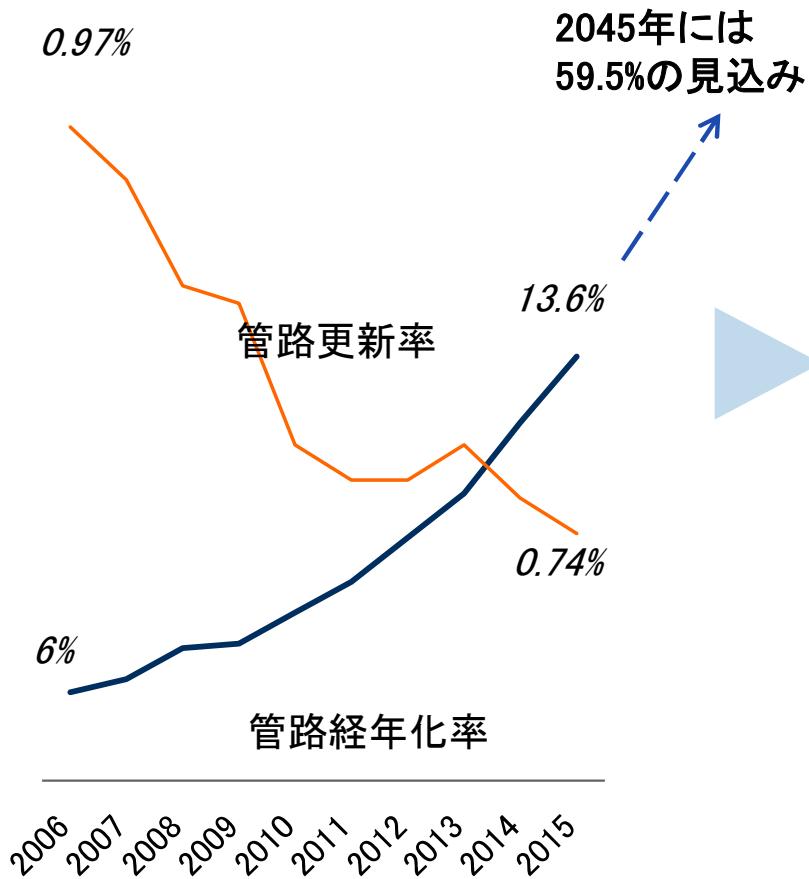


大地震で曲がっても  
オイル漏れの無い  
フレキシブル継手の例





水道の老朽化は進む一方で、  
管路更新が進んでいない。



### SDF工法

- 掘り起こし困難な場所に最適。
- 既存の水道管の中を通して補修。

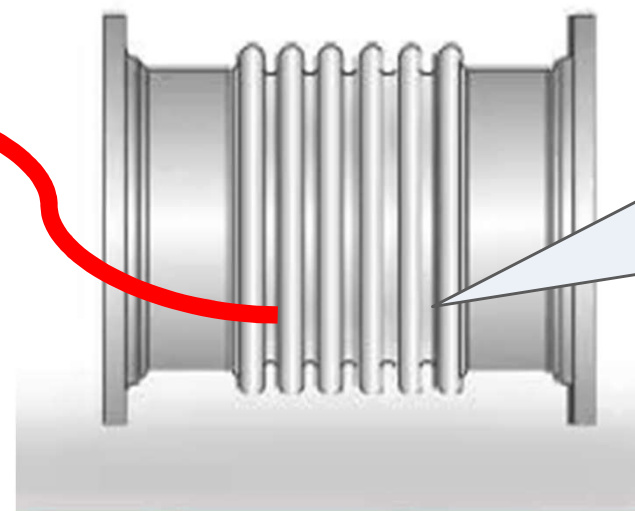


SDF工法向けにフレキ管を供給

第1回インフラメンテナンス大賞  
(厚生労働大臣賞)

- ◆ 地震や熱膨張など、様々な負荷から設備機器と配管を守ります。
- ◆ 耐震性に優れ、配管の破損や脱落による流体漏洩等の2次災害を防止。
- ◆ 設置場所

|         |   |
|---------|---|
| エネルギー関連 | 石油・化学プラント、電力プラント、LNGプラント、LNG船、水素ステーション、水素運搬船など。 |
| ライフライン  | ガス・水道など。  |
| 大規模産業設備 | 製鉄プラントなど。                                       |



波状の部分が、伸縮します。角度を付けることもできます。

- ◆ 真空配管とは、微細なゴミも嫌う設備などに設置されるクリーンな配管のこと。
  - 真空機器の製品は、厳しい検査に合格した、気密性に優れた製品。
  - ステンレス製の継手は、組織を均一化するため、熱処理を施す。
- ◆ 製品供給に加え、配管の設置工事・プレハブ加工も一括で受けられるのが、当社の強み。
- ◆ 使用用途

半導体製造装置、FPD製造装置、真空ポンプ、医療機器、医薬品・食品工場などの機械装置

装置間の真空配管

真空ポンプの配管

温度調節用の配管(チラーホース、クライオホース)

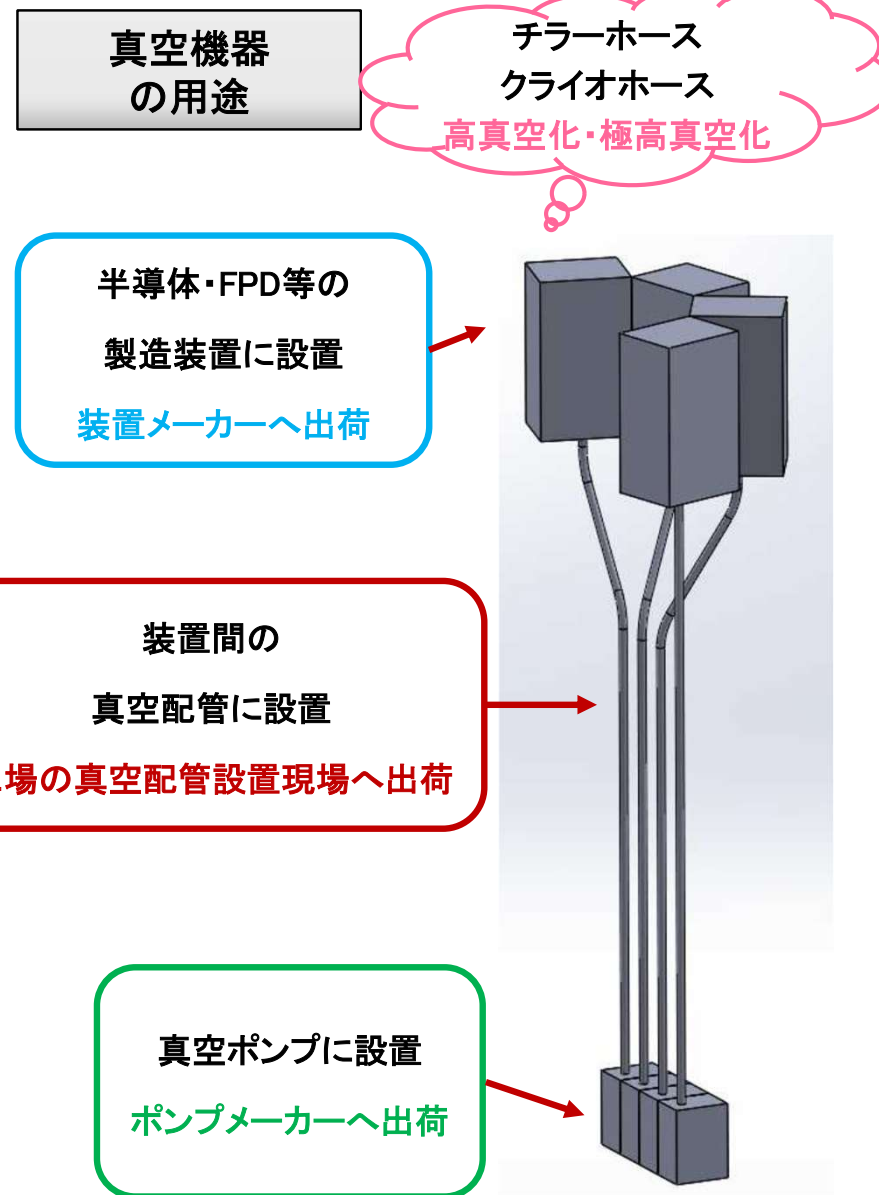


## ● 当期の状況

- ◆ 世界的な半導体需要の高まりから、半導体製造メーカーによる工場の新設や製造ラインの増設が活況。
- ◆ 半導体の製造(特に前工程)にはクリーンルーム等の真空空間が必要なため、真空ポンプと真空配管を設置。
  - **真空機器の需要が拡大。**
- ◆ 当社の真空機器は、**半導体・FPD等の製造装置用**、**真空ポンプ用**、**装置間真空配管用**の3つの用途で、使用。
- ◆ **真空配管の設置工事と工場でのプレハブ加工**も請け負っており、製品と工事の両面でサポート。

## ● 成長イメージ

- ◆ 真空配管は、半導体のみならず、様々な分野の工場で需要が増加。
- ◆ 高度な医療用の診断装置に設置。
- ◆ **チラーホース、クライオホース**のマーケットシェア獲得。
  - ※ 低温・極低温の空間をつくるための冷却用長尺ホース。近年は加温でも使用。半導体工場等では、高真空・極高真空の空間をつくるためのクライオポンプとクリーンルームとをつなぐ配管に設置。





### 防災用貯給水タンク「マルチアクア」

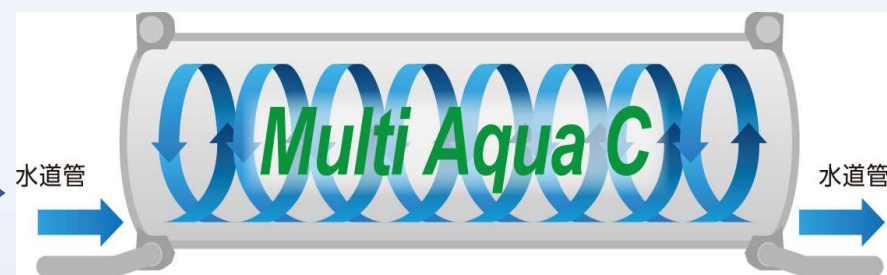
- マルチアクアは、平常時には、給水配管（水道管）の一部として機能しながら貯水を行い、災害等による断水時には、直前まで貯水されたタンク内の水道水を供給する、貯給水タンクです。
- 水道水を使うたびに、マルチアクア内に新しい水道水が貯水されます。そのため、備蓄水のように、消費期限の管理や交換を行う手間が生じません。
- 災害発生時には、飲用の他、傷口の洗浄等にも水が必要です。傷口の洗浄には水道水が適しているとされており、マルチアクアは、飲用にも傷口の洗浄にもご活用いただけます。
- 戸建住宅用には、設置場所に困らない、床下収納の開口部から床下に設置できる製品もございます。
- ペットボトル等の樹脂製容器の使用を削減する効果がございます。サステナブルな社会の実現に、貢献して参ります。



戸建住宅用には、床下収納の開口部から床下に設置できる製品もございます。

タンク内の水が循環して常に新しい水を貯水します。

企業のBCP向け新製品「マルチアクアC」。



# Multi Aqua C

マルチアクア

3つの“守る”



- ◆ 配管を軸に、川下戦略による防災・工事事業への参入。
- ◆ 防災・工事事業には、2つの事業。

### 消火設備の配管工事 配管のプレハブ加工

- スプリンクラー等の消火設備の配管工事
- 工場で行う配管のプレハブ加工



自動切断機

### 水道管及び電柱の 切断装置

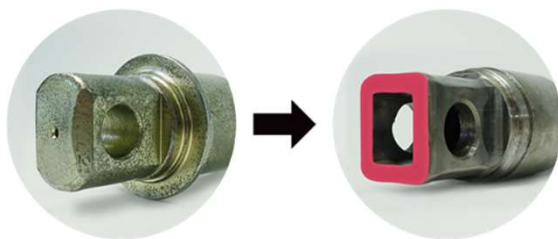
- 自走しながら配管や電柱を切断。
- 東京都が推奨する無電柱化に貢献。





### 自動車・ロボット事業

- 金属塑性技術を生かした、金属部品の軽量化、材料費の低減及び強度増。
- 多くの自動車メーカーで使用。
- ロボット分野の需要拡大。
- 半導体工場等の機械装置用部品にも採用。



従来製品

パイプ化製品

### 介護事業

- ケアプランに沿った福祉用具レンタル
- 福祉用具の販売
- 介護用マットレスの洗浄
- 住宅バリアフリー化工事
- 介護サービスの創造



# テクノフレックスグループの将来を見据える上で重要なキーワード



■ 当グループを取り巻く環境に大きなインパクトを与える重要キーワードを5つピックアップしました

| 重要キーワード   | 市場にもたらす変化   | 該当セグメント                |
|---|---|------------------------|
| 1 気候変動等による災害増加に対する<br>防災意識の高まり<br>(国土強靱化計画)     | ✓ 防災設備需要の拡大<br>✓ 国民の防災意識の高まり                                  | ✓ 継手事業<br>✓ 防災・工事事業    |
| 2 戦後日本が築いてきた<br>社会インフラ老朽化対応<br>(水道の老朽化対応、都市再開発) | ✓ 水道整備関連の予算拡充に伴う取替需要増加<br>✓ 都市再開発に伴うビル等の建替需要増加                | ✓ 継手事業<br>✓ 防災・工事事業    |
| 3 AIと自動化<br>(5G商用化、ロボティクス)                      | ✓ 半導体市場の拡大<br>✓ ロボット市場の拡大                                     | ✓ 継手事業<br>✓ 自動車・ロボット事業 |
| 4 クリーンエネルギー<br>(脱炭素化、脱ガソリン、脱エンジン)               | ✓ エンジン搭載車の減少、EV化<br>✓ 化石燃料以外の燃料(水素等)の輸送・貯蔵<br>✓ クリーンエネルギー設備増設 | ✓ 継手事業<br>✓ 自動車・ロボット事業 |
| 5 ヘルスケア<br>(地域包括ケアシステム推進)                       | ✓ 在宅介護が支援されることによる、各家庭向けの福祉用具需要の高まり                            | ✓ 介護事業<br>✓ 自動車・ロボット事業 |



# 国内マーケットの動向サマリ(1/3)



- 産業・機械と電力は成長、製鉄、石油化学プラント、ガスは低迷を予想しています
- 建築は、中長期的には需要拡大が見込まれるものの、働き手離職等のリスクがあり、不安要素ありと評価しています

| マーケット |          | 今後5年間の動向  |
|-------|----------|---|
| 継手    | 建築       | ✓ 中長期的には都市再開発や防災対策に伴う需要を見込めるものの、働き手の大量離職等の不安要素があり下振れのリスクあり                    |
|       | 製鉄       | ✓ 主要販売先である造船・航空機について今後低迷が予想されることや、EV化により鉄の必要量が減少する可能性があり、今後の見通しは厳しい           |
|       | 石油化学プラント | ✓ 石油化学製品の供給過多やプラスチックに対する規制強化等により、石油化学業界にて積極的な設備投資を期待することは難しいため、低迷傾向が継続するリスクあり |
|       | 産業・機械    | ✓ 半導体等の成長産業での設備投資が見込まれる。<br>✓ メインユーザー層である中堅・中小企業の設備投資は冷え込む予想。                 |
|       | ガス       | ✓ 人口減少や温暖化対策等による需要減少リスクあり   |
|       | 電力       | ✓ 政府の推進する再生エネルギー導入拡大に向け、送電インフラ整備に伴う設備投資需要が見込まれることから、今後の見通しは良好                 |

## 国内マーケットの動向サマリ(2/3)



- 消防・スプリンクラー、水道、半導体、水素は成長、造船は低迷を予想しています
- 原子力は堅調予測ですが、再生エネルギーの動向次第で縮退するリスクがあり、不安要素ありと評価しています

| マーケット |           | 今後5年間の動向   |
|-------|-----------|--|
| 継手    | 造船        | ✓ 将来的には水素運搬船に期待が持てるが、当面の間は、コロナの影響により輸送量が減少し、外部環境としては厳しい見通し                           |
|       | 消防スプリンクラー | ✓ スプリンクラー設置義務の課される大型施設の新設が引き続き見込まれること、及び過去に設置したスプリンクラーの取替需要が見込まれることから、今後の市場動向は明るい見通し |
|       | 水道        | ✓ 水道管路の老朽化が進んでおり、今後の更新需要が期待される<br>✓ 成長ドライバーであるSDF工法に対する需要も今後増加見込み                    |
|       | 半導体       | ✓ 当社グループのターゲットとするメモリーの市場規模は今後右肩上がりに成長見込み<br>✓ NANDシェア上位5社による大規模設備投資が進行中。             |
|       | 原子力       | ✓ 政府による原子力活用の提言により、当面の需要は堅調予測<br>✓ 一方で再生エネルギーの成長状況により、将来的には稼働が抑えられ縮退するリスクもあり         |
|       | 水素        | ✓ 水素燃料の市場規模が今後拡大していくことに伴い、今後の見通しは良好  |
|       | 貯給水タンク    | ✓ 個人/法人の備蓄水に対する需要の高まりや、災害時の一時滞在施設の設置推進の動きにより、今後の需要は拡大の見通し                            |

## 国内マーケットの動向サマリ(3/3)



- 消防設備工事、貯水タンク、ロボット、介護事業は成長、ガソリン車は現状維持を予想しています
- EV車は成長見込みの一方、低価格化や社会インフラ整備といった課題を有するため、不安要素ありと評価しています

| マーケット       |       | 今後5年間の動向  |
|-------------|-------|---|
|             | 防災・工事 | <ul style="list-style-type: none"><li>✓ 半導体工場、データセンターの増設により、消防設備工事が増加</li><li>✓ 都市の再開発による建物の高層化・大型化で、消防設備工事が増加</li></ul>                    |
| 自動車<br>ロボット | ガソリン車 | <ul style="list-style-type: none"><li>✓ 自動車需要は世界的に高まりを見せる一方で、EV車の割合が増加していくことから、差し当たっては緩やかな増加/横ばい傾向が予想される</li></ul>                          |
|             | EV車   | <ul style="list-style-type: none"><li>✓ 脱炭素に向けた動きもあり、今後大きく伸長する見通し</li><li>✓ 一方で低価格化や社会インフラ整備などの課題もあり、普及が遅れるリスクもあり</li></ul>                 |
|             | ロボット  | <ul style="list-style-type: none"><li>✓ 自動車を中心とした低価格化の要請に応える形で需要を大きく拡大していく見通し</li></ul>   |
|             | 介護    | <ul style="list-style-type: none"><li>✓ 少子高齢化の進行に伴い、今後の需要は引き続き伸長していく見込み</li><li>✓ 高齢者人口の増加と併せて、中国で廉価な福祉用具が流通しており、国内販売市場を開拓できる余地あり</li></ul> |

2022年12月期 第2四半期決算

---



補足説明資料 - 完 -

---

株式会社テクノフレックス  
証券コード:3449